

衰退日本を成長日本に変身させる
- 100年に一度のチャンスをつかむ -

2024年2月27日

イノベーション・エンジン株式会社
代表取締役社長 佐野 睦典

「イノベーション・エンジン株式会社 (IE)」とは



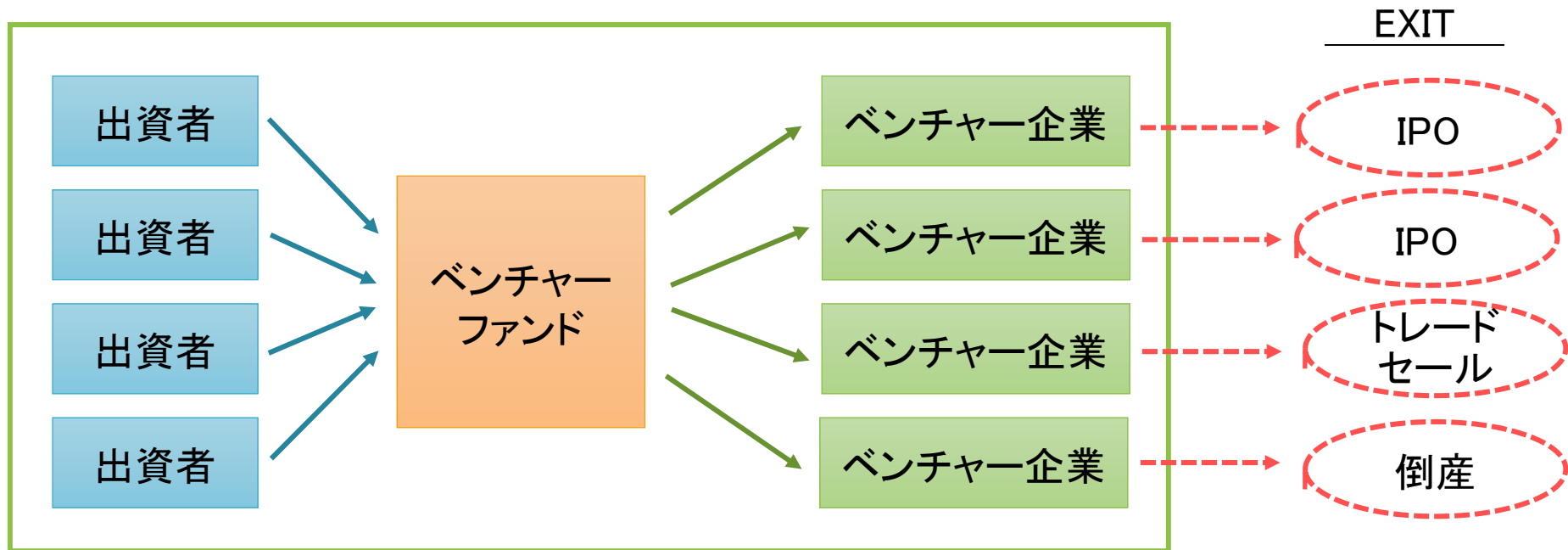
- 設立 : 2001年1月に設立した技術系ベンチャーキャピタル
- 目的 : 産業ニューフロンティア創出のエンジンとなる
- 代表取締役 : 佐野睦典
- 事業内容
 - 未上場会社および新興上場企業への投資
 - 大企業のCVC活動支援
 - これまでの運用実績は約480億円
- 所在地 : 東京都港区芝2-3-12
- URL : <https://www.innovation-engine.co.jp/>

佐野 睦典 とは



- 1974年 野村証券 難波支店 営業課
(営業を知る)
- 1977年 野村総研 アメリカ株調査室
成長企業調査室ヘッド
(調査・予測を知る)
- 1995年 JAFCO 投資調査部長
産学連携投資チーム長
(投資を知る)
- 2001年 イノベーション・エンジン(株)を設立
その後、約20のファンド設立
6社へのCVC助言を行う
(ベンチャーキャピタルの経営を知る)

一般的にベンチャーキャピタル事業とは何か



- 期間 7年(レイター中心ファンド)～15年(スタートアップ中心ファンド)
- IPO確率 平均すると約30%程度

ベンチャーキャピタルの歴史



米国が発祥

- 米国で1920～30年頃から個人富裕層がベンチャー投資を始めた
1946年に第一号VCのARDが設立された
- 1970年代以降、停滞著しい米国において、第三次産業革命(情報革命)の火付け役となると共に重要なプラットフォームとなる

日本では1970年代に誕生

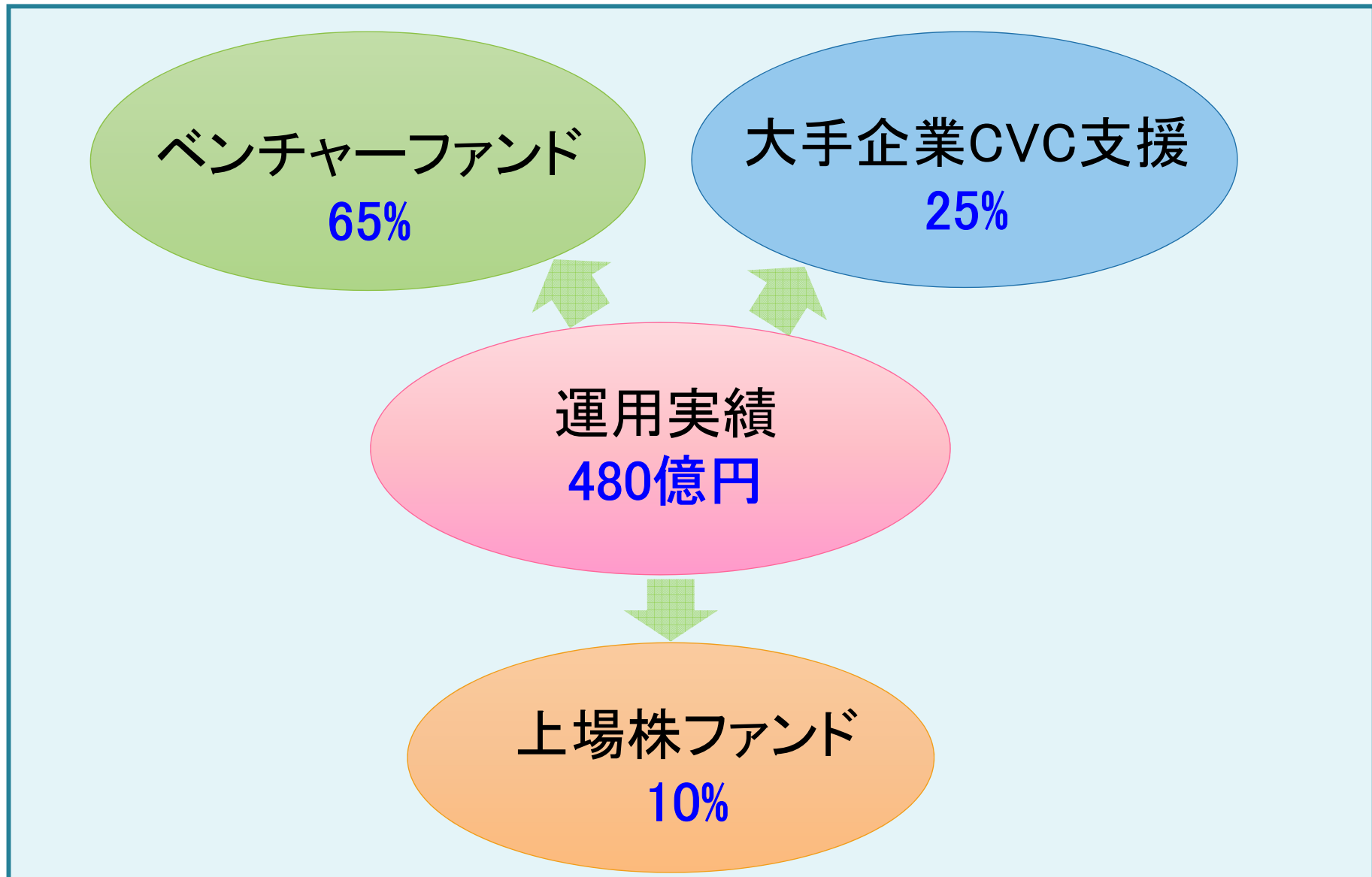
- 日本でも、1972年京都エンタープライズ・ディベロップメントが設立
1973年JAFECOも設立された
- 1995年まではIPOまでの年数が長く金融機関の子会社がほとんど
- 1996年以降、米国の動きに触発され独立系VCが相次いで設立されたが、この遅れが第三次産業革命に日本が出遅れる大きな要因の一つとなった

日米のベンチャーキャピタル比較



	日本	米国
2022年 ファンド組成金額	0.3兆円	21.4兆円
2022年 ベンチャー投資金額	0.3兆円	31.7兆円
EXITの方法	IPO 80% M&A 20%	IPO 20% M&A 80%
VCの種類	歴史ある金融系に加え、 独立系が増加 近年は大企業CVC、外資 系VCが急増中	独立系パートナー型中心 大企業CVCも多い 上場株投資会社のクロス オーバー投資も増加

IEのファンド等運用状況



IEのファンド等への主な出資企業

● IEファンドへの出資企業

(大企業)

- みずほ銀行
- 新生銀行
- クレディセゾン
- あいおいニッセイ同和損保
- リコー
- 大日本印刷
- 信越化学工業
- 世界トップ級半導体メーカーなど

(オーナー系企業)

- ベルーナ
- デジタルハーツグループ
- トレジャーファクトリー
- イーレックス
- 日特エンジニアリング
- インソース
- イノベーション
- IRジャパン
- ビジョン など

● 大手企業CVC支援/投資顧問

- 加賀電子(株)
開始年月日 2017年5月
契約額 50億円
- 西松建設(株)
開始年月日 2020年1月
契約額 30億円
- 東証一部上場リース会社
(上場株投資)
開始年月日 2020年7月
契約額 50億円
- 安川電機(株)
開始年月日 2021年1月
契約額 22億円
- (株)ADワークスグループ
開始年月日 2021年4月
契約額 20億円
- 中国電力(株)
開始年月日 2022年3月

IEの運用実績の歴史

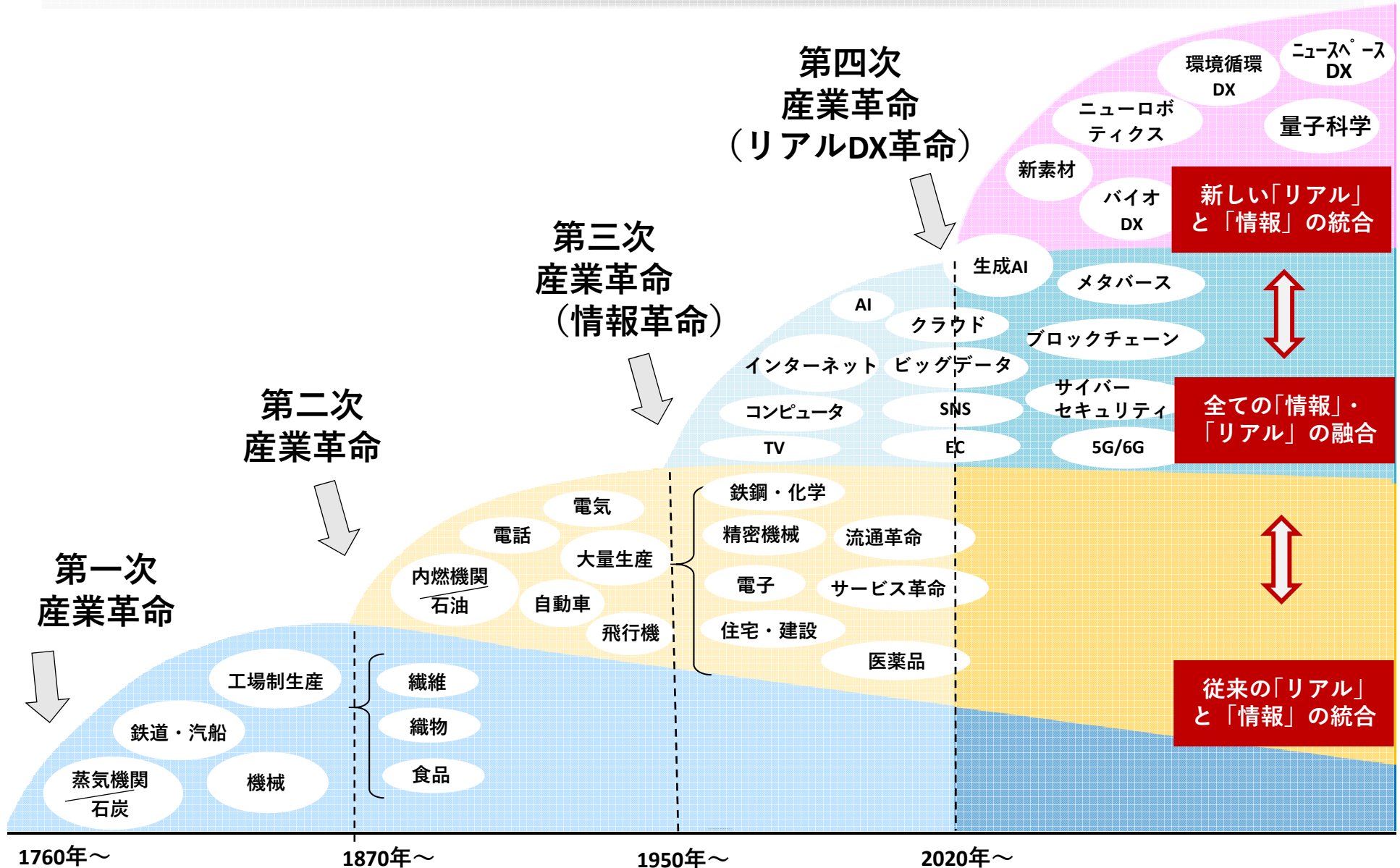


投資時期		2001年～2011年6月 (全ての結果が出ている)	2011年7月～2020年 (80%の結果が出ている)	2021年～2024年2月 (ほとんど今後IPO)
投資社数		約50社	42社	25社
IPO or 値上りTS	実現済	2社 (4%)	24社 (57%)	2社 (8%)
	可能性大	0社	4社	15社
	合計	2社 (4%)	28社 (67%)	17社 (68%)

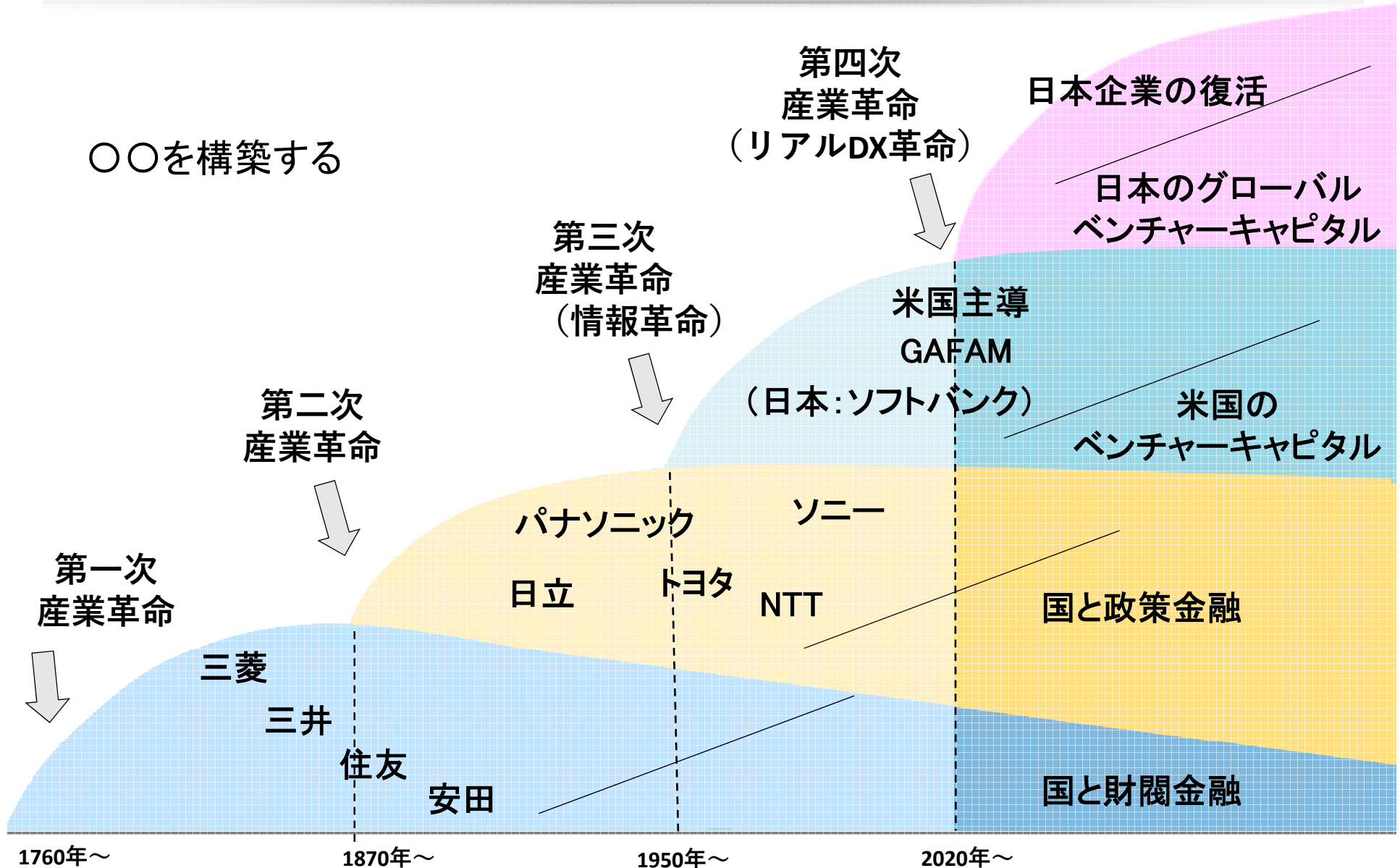
劇的に成功確率が高まった理由

- ① 技術専門家のキャピタリストを全員解雇し、事業と投資の両方を経験したキャピタリストに総入替
- ② 投資対象を、ハード技術企業⇒マーケットソリューション企業に転換
- ③ 2011年までの約50社の失敗によるノウハウの蓄積

100年に一度の産業大革命 — リアルDX革命をリードする産業 —



100年に一度の産業大変革 — リアルDX革命をリードする産業 —



第三次産業革命で日本敗退の要因



- ① 情報革命＝コミュニケーション革命(言語の壁)
 - ・米国企業は、米国市場の制覇→英語圏市場の制覇→世界市場の制覇
 - ・日本企業は、日本語圏市場から出られず

- ② ハードウェアへのこだわり
 - ・第二次産業革命での成功体験
 - ・精密化、高品質に集中

- ③ 米国の反撃と韓台中の攻撃の挟み撃ち
 - ・米国による規制強化
 - ・韓台中の攻撃(液晶、TV、パソコン、バッテリー、半導体、など)

情報産業革命の日米のリーダー企業



日本	分野	米国
Google (Alphabet) Yahoo! (SB)	検索エンジン	Google (Alphabet)
Apple	スマホ	Apple
LINE (SB)	SNS	Facebook (Meta)
Amazon 楽天	EC	Amazon
Microsoft	パソコンOS	Microsoft
NVIDIA	AIプロセッサー	NVIDIA
米国系中心に多数	アプリ	Salesforce、Adobe
ゲーム、アニメ	コンテンツ	Netflix、Disney+

注) 青字は日本勢

リアルDX革命をリードする産業群

リアルDX革命の六市場



リアルDX革命の「有望資先企業群」

リアルDX革命の六市場

地球空間

- アイグリッド ◆
- インフォメティス ◆
- ピーステックラボ

宇宙空間

- ispace ☆
- アストロスケール ◆
- インターステラ ◆

生産活動

- Oishii (米国) ◆
- SkyDrive
- エアロセンス ◆

リアル&情報技術

- Tenstorrent (米国) ◆
- カーボンフライ
- エースターカンタム
- PicoCELA ◆

情報空間

- 17 LIVE (台湾) ☆

生活活動

- セレンディクス ◆
- tripla ☆

生命活動

- Veritas In Silico ☆
- ユーフォリア

- ☆ IPO実現
- ◆ IPO 1年以内
- ◆ 未投資

大逆転の5ステップ



- ① 日本が有する世界的強味領域に徹底的に集中
- ② まず日本で、ベンチャー企業、大企業、金融機関、国が全面協力
- ③ 世界に打勝つ事業戦略の構築
- ④ グローバル展開をリードする人材の輩出
- ⑤ グローバルエコシステムを徹底的に強化して事業拡大

大逆転の5ステップ



① 日本が有する世界的強味領域に徹底的に集中

- 「リアル&情報技術の革新」で極力勝つ
- 地球空間、生産活動、生活活動の全部および宇宙空間、生命活動の一部が日本の主戦場

大逆転の5ステップ



② まず日本で、ベンチャー企業、大企業、金融機関、国が全面協力

- ベンチャー企業が大企業や金融機関と協業しつつ、日本の国家的施策や国策的資金（国需）と連携して進める

③ 世界に打勝つ事業戦略の構築

- 潜在市場を徹底的に調査する。
- 競合企業に打勝つ技術・生産・販売・戦略を構築する

④ グローバル展開をリードする人材の輩出

- グローバル経験と成功体験を有する経営陣を導入する
- グローバル視野を持つ経営者を育成する

大逆転の5ステップ



⑤ グローバルエコシステムを徹底的に強化して事業拡大

- 世界トップクラスの企業、金融機関、政府機関などとのアライアンスを締結する

- ① 日本の世界最強技術・事業のベンチャー企業への投資
- ② 日本人の日本以外で最強技術・事業の設立企業への投資
- ③ 海外企業の日本の最強技術・事業とのアライアンス企業への投資

多段式のワイヤレス通信中継システムの開発・販売

- 古川社長は、NEC、九大教授を経て2008年に当社を設立
- 世界で最も広域にワイヤレス空間を創り上げる通信中継技術の開発に成功
- 日本では、まず建設、流通、倉庫などの広域空間のワイヤレス空間化のデファクトになっている
- 2022年からは世界最大のマーケットがある米国に拠点を設立し、グローバル化展開を進めている

AI向け半導体の設計に特化するファブレス企業

- 次世代の最先端半導体の国産化を目指すラピダスとも提携
- AMD、アップル、テスラ、インテルなどを渡り歩き、最先端半導体の開発に携わってきた伝説のエンジニアジム・ケラーが率いる
- 独自のAIアクセラレータとRISC-V(オープンソース)のCPUを統合することにより省電力で低コストの“AI半導体”を実現

事例：株式会社カーボンフライ



炭素繊維を超える最軽量、強度のカーボンナノチューブでの量産

- テンフィ社長は、中国生まれ、筑波大卒で、カーボンナノチューブ開発のために米国で博士号取得して、日本で企業化
- 誰も成しえなかった触媒担持法で高品質量産工場の開発に成功
- 電池の導電助剤、自動車、飛行機などの構造材で炭素繊維を上回るポテンシャルに挑戦

食品業界のテスラを狙うAI食品工場

- 古賀社長は、元デロイト・トーマツコンサルティングを経て、米国で常識を覆す食品工場の実験に着手
- 東京ドームクラスの規模で付加価値の高いイチゴ、メロンなどを生産する全自動工場を建設
- ニュージャージーにメガ工場を建設。Whole foodsとの直取引で世界展開のスタートを切った

空飛ぶ車 (eVTOL) の開発・製造・販売

- 福澤社長は、トヨタ自動車入社後、夢のある乗り物「空飛ぶクルマ」を実現すべく18年7月、当社を設立
- 経産省、国交省の支援を受けると共に、大阪万博の「空飛ぶクルマ」の運行事業者に選定された
- 海外展開を先行すべく、米国型式承認 (TIC) 取得に挑戦中
- 海外中心に数100機の受注内定

ホテルのチャットボット・予約システムのトップ企業

- 高橋、鳥生の両代表は、日本コカ・コーラ、Amazonなどの米国大企業を経験して当社を設立
- 当社事業を立上げて数年で業界トップクラスとなり、22年11月に東京グロース市場にIPO
- その後、台湾、韓国に進出すると共に23年には、インドネシアのトップ企業の買収を実行した。
まずはアジアNo.1を目指す